



「南地区三世代交流さわやか芸能フェスティバル」

学校長 小木曾敏樹

2月4日(日)、中津川市文化会館において、「中津南地区三世代交流さわやか芸能フェスティバル」が開催され、南小学校6年生が歌声交流会で発表した「命のうた」を歌い、フェスティバルの最後を飾りました。当日は13人が発熱等で欠席し3/4の人数での合唱になってしまいましたが、会場では目頭を押さえる姿が何人もあり、感動的な歌声を披露することができました。閉会で全員合唱も6年生がステージ上に上がったまま歌い、指揮もピアノ伴奏も務め、活躍しました。

他にも、恵那文楽保存会ジュニアクラブ、八幡神社笹踊り保存会、神代獅子保存会などで南小学校の子どもたちがステージに上がり、見事な舞いや演奏を披露し活躍しました。

地域の一員として、地域行事に参加し、地域を知り、地域の人を知り、地域のために頑張ることで、地域を愛する心を培い、将来、地域の担い手となっていくことでしょう。

東日本大震災でも、能登半島地震でも、中学生高校生などの若い世代が避難所で献身的に働いていました。地域コミュニティの大切さを改めて感じる1日でした。



児童会行事「南小大冒険」

2月9日（金）の1～3時間目を使って、児童会行事「南小大冒険」を行いました。児童会代表委員と先生方、そして今回はPTA本部役員の皆さんにも参加いただき、様々なゲームやクイズなどのミッションを準備、それを1～6年生の異学グループでクリアしていくという「大冒険」。どのグループも協力し合ってミッションをクリアしていました。

なぞなぞやクイズ、しりとりなど頭を使うミッション、運動などでグループで協力しないとクリアできないミッション、中にはみんなで一つの物語を作っていくといったミッションもありました。

この児童会行事「南小大冒険」は、昨年からはまった行事で、昨年も今年も年に2回開催しています。子どもたちはこの行事が好きなようで、心待ちにしていました。



この行事の良さは、「異学年グループ」で活動することです。高学年が低学年の子の面倒をみて、手をつないだり助けてあげたり、時には抱っこやおんぶをしてかわいがります。それを見ている中学年はいずれ高学年になり同じように世話をする。高学年や成長することへのあこがれがそこに生まれます。



代表委員会の子たちは、自分が楽しむのではなく、全校の子を楽しませることに喜びを得ています。自分を犠牲にしているわけではなく、楽しみたい気持ちもあるけれどそれ以上に人を楽しませることへの価値を見出しているのです。閉会式には、会場が真っ暗になりスクリーンに鬼が登場。それを豆まきで追い払うというサプライズ演出。とっても工夫されており、全校みんなが楽しむことができました。PTA本部役員さん方の特別参加もあり、とっても盛り上がりました。最後は代表委員の子たちに全校で感謝の拍手。素敵な行事でした。

